

駒場ケルネル田圃と渋谷マチュピチュ天空庭園へ

日時:2014年9月12日(金) 天候:晴れ時々曇り 10000歩 約6km

集合:京王井の頭線「駒場東大前駅」10時

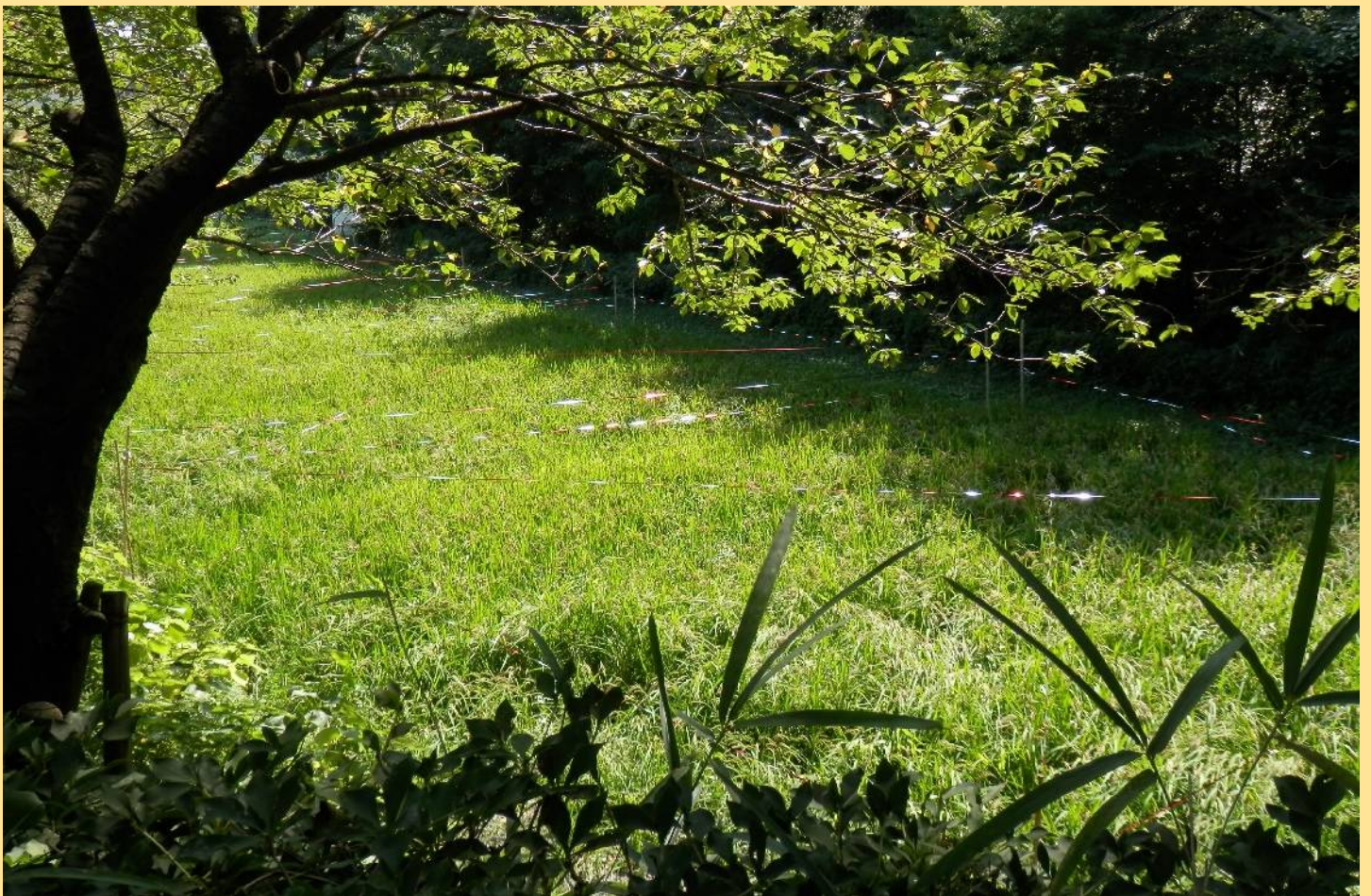
コース:駒場東大前駅→駒場野公園・ケルネル田圃(湧水)→日本民芸館→駒場公園・旧前田侯爵邸洋館・和館
→日本近代文学館→東大構内・一二郎池(湧水)→鍋島松濤公園→[ポルトガルの台所マヌエル or イタリアン
松濤マル]→神泉駅・円山→大橋ジャンクション天空庭園(解散)

参加者:講師:山岡光治氏

吉越(L)・神谷・安永・青松秀・斉藤優・中村年・森川・井内・伊藤美・落合・中嶋・草野・富樫・中村ゆ・山下・丹後
平林勝・志村・桑原・山本・穴原・小島／一般:仁木・田熊 計25名

昨日までの不安定な天候が嘘のように、今日はすっかり晴れて絶好のウォーキング日和となりました。渋谷の“マチュピチュ天空庭園”とは果たしてどんな所なのか？そしてポルトガル料理とは？・・・何かと興味をそそるタイトルに引き付けられたのか、圧倒的な女性参加者の数に男性陣は影が薄くなっていました。コースには公園や池があるので、今注目の虫除けスプレーを塗って出発しましたが、皆さんの若さ(?)に蚊も遠慮したのか幸い刺された方はいませんでした。美味しいランチを食べて天空庭園から下界を眺めると、“天国”に一步近づいたような気分となった一日でした。

《フォトレポート 小島》



【駒場野公園内のケルネル田圃。秋の収穫時期には黄金色に輝きます】

※ケルネル田圃:明治14年ドイツ人ケルネルが駒場農学校の外人教師として着任以来、同25年の帰国まで近代日本の農業の基礎づくりに大きな影響を与えた。特に水田土壌の研究とイネ作肥料の研究に多くの業績を残し、この水田が試験用として利用されたことから「ケルネル田圃」と呼ばれた。



井の頭線駒場東大前駅に集合。初めて降りました。



ここから東大に“裏口入学”します。



山岡先生から説明があります。



ここには綺麗な湧水がありました。



吉越より一般参加者の紹介。



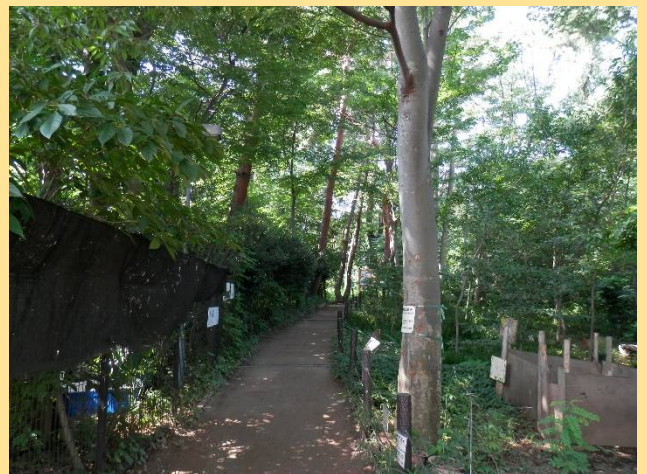
洒落た駒場児童館の先を曲がると...



駒場野公園の一角に自然観察舎があります。



観察舎入り口では、稲穂がもう色づいていました。



ここから公園に入りますが、何だか蚊がいそうで...



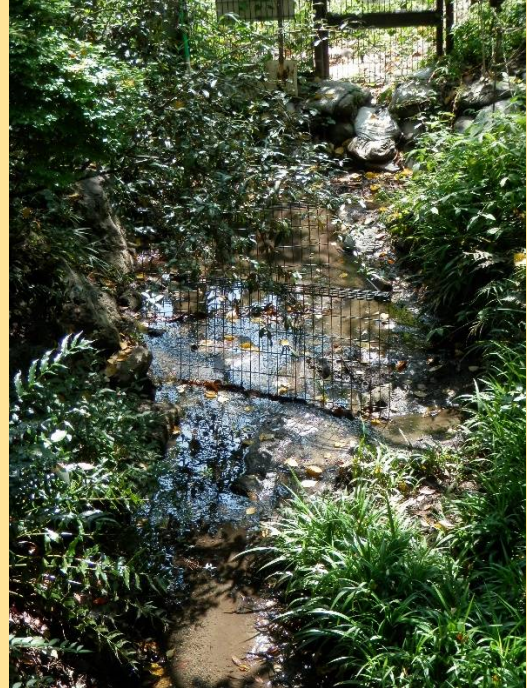
山岡先生の説明にも熱が入ります。



長袖着用の方が多かったのは蚊のせい？



水田の碑。農業教育発祥の地とあります。



湧水の流れがケルネル田圃を潤して。



※駒場野公園：この一帯はかつて笹が一面に生え、松林が茂る広い原野で駒場野と呼ばれた。明治になると農業の近代化を図るため、この原野を利用して駒場農学校が開校した。その後東京農林学校、東京帝国大学農科大学等を経て、東京教育大学農学部となり昭和53年に筑波へ移転。その跡地に造成されたのがこの駒場野公園で、開園は昭和61年3月31日。

(目黒区資料より)





この辺りは高級住宅街になっています。



日本民藝館に到着しましたが中には入りません。



日本民藝館西館。珍しい大谷石の屋根瓦です。



東大駒場リサーチキャンパス。まるで西欧の城塞のよう。



少し歩いて...



駒場公園に入ります。ここは旧前田家の前田利為侯爵駒場邸跡です。



[駒場公園の歴史]

加賀百万石の当主だった旧前田家の前田利為侯爵駒場邸跡。前田侯爵がこの地に邸宅を構えたのは昭和の初めのこと。明治11年設立以来、近代農業に輝かしい業績を残した駒場農学校(後の東京帝国大学農学部)が本郷に移転した跡地を、第一高等学校(現在の東京大学教養学部)、東京農業教育専門学校(東京教育大学農学部、現在の筑波移転跡地)とともに分割使用したものです。建物は、昭和初期の和洋両建築の粋を集めたもので、化粧レンガやタイル張りのほどこされた洋館は昭和4年、書院づくりの和館は昭和5年に完成し、自然の巨木を生かし、名石をあしらった幽すいな奥庭や、芝生の広場が設けられました。現在の公園は、昭和42年に東京都が公園として開園したもので、昭和50年4月から目黒区に移管され今日に至ります。(資料より)



洒落た洋館です。



邸内はスリッパに履き替えて見学。入館無料です。



玄関ロビー。重厚な雰囲気漂います。



室内デザインが素晴らしい。さすが侯爵邸です。



窓が大きくとられた部屋。明るく開放的です。



赤絨毯の廊下。ドラマに出てきそうな...



外観はまさに森の中の洋館。



集合写真を撮りましたが顔が潰れてしまいました。



和館は閉館中でした。



囲い塀は竹で出来ていて和の心が感じられます。



駒場公園の裏門。粋な入り口です。



垣根のこの花は？



こんな玄関の家も・・・素敵ですね。



ここからまた東大に入ります。



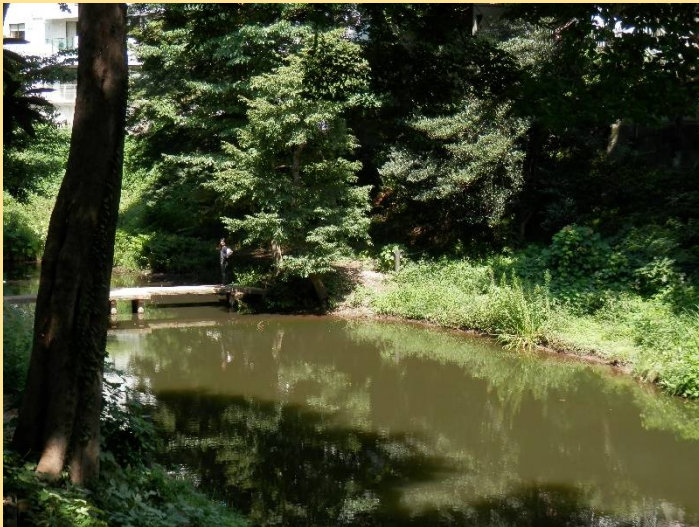
構内に行く。木陰で日差しも爽やかです。



木陰で戦略会議？ ランチタイムに間に合うか・・・



重厚な雰囲気のある建物です。



ここが東大の駒場池。通称一二郎池。

※東大本郷校舎には三四郎池がありますが、この一二郎池の名はそれに因んでつけられました。一説には一浪・二浪からきたとも言われますが、いずれにしても湧水池があるのは風情が素晴らしいものです。



湧水地点です。ここが目黒川の源流となっています。



時間が押しているため鍋島松濤公園は通過するだけ。



池では亀と鳩が仲良く共存共栄？

※鍋島松濤公園：江戸時代には紀州徳川家の下屋敷があったところで、明治9年佐賀鍋島家に払い下げられた。鍋島家はここに茶園を開き「松濤園」と名付け「松濤」というお茶の販売も行っていた。昭和7年には茶園が廃止され、湧水地のある一部が児童公園として整備され同年東京市に寄贈された後、渋谷区に管轄が移管され現在に至っている。



ランチは二店に分かれ。こちらはポルトガル料理「マヌエル」
予約の関係で「マヌエル」は8名限定、希望者はジャンケンで決定。他の17名は「松濤マル」に入りました。



↑こちらはイタリア料理「松濤マル」です。



松濤マルで食べた肉料理ランチ。他のお客もいて満員なので
食事中の写真は失礼なので撮りませんでした。



↑早く終わったマル組は、隣のマヌエルを覗きに？
この図はどうも松濤には似合いませんね！



満腹の重い身体を引きずって円山町へ。



旧渋谷三業地を歩きます。狭い道ですがそれとなく雰囲気がありますね。



井の頭線神泉駅前に着きました。



駅前のラーメン店。若い女性が多いのは・・・なぜ？



電車はトンネルを抜けるとすぐ渋谷駅です。



大坂を下り天空庭園に向かいます。



ちょっと寄り道。日本地図センター。



皆さんここでお勉強タイムです！



さすが先生は水を得た魚のようで・・・



やっと天空庭園入り口です。階段がキツイ？



大橋ジャンクションの構造が分かりますね。



天空庭園はビルの上とは思えない緑があります。



ぶどう棚もありますが、いったい誰が食べるの？



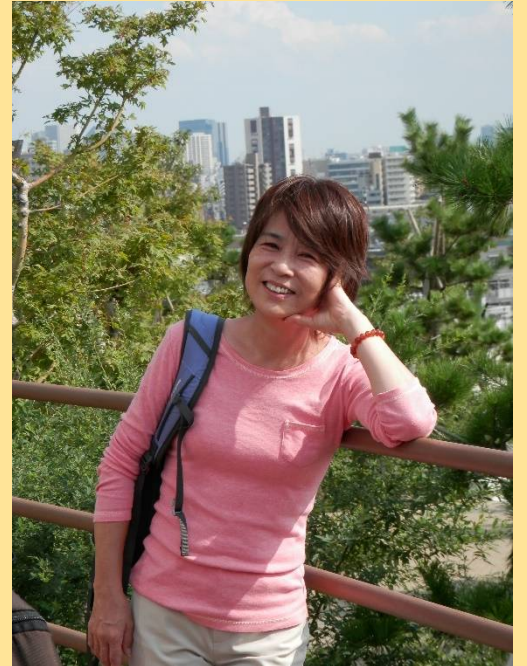
屋上はすでに秋本番、ススキが風に揺れて・・・



この先には休憩デッキもあります。



展望デッキで暫し休憩。皆さんここまでお疲れ様でした。



このポーズは？ 単なるお疲れかも！

※目黒天空庭園：首都高速3号線と中央環状線を結ぶ大橋ジャンクションの屋上を緑地化した庭園で、目黒区の区立公園として整備されている。ドーナツ状の楕円形が特徴。高さは地上11mから35m,延長距離は400mで、平均勾配は6%のループ状。最も低い部分は歩道橋経由で国道246号へと通じている。庭園には芝生を基礎として約30種の樹木や花が植えられている。（目黒区資料より）



山岡先生もお役目から解放されほっとした様子。



“青松組”の6人。いつまでも青春でいて下さい！



天空庭園にて全員集合。青空の下、爽やかな秋の風を感じながら・・・またのウォーキングで会いましょう。

※天候に恵まれ気持ちの良いウォークとなり、お目当てのランチも皆さん大満足のご様子でした。距離は短かったものの、普段歩くことのない渋谷区から目黒区に跨るエリアを歩き、高級住宅地の中の公園や湧水に癒されましたが、今日はあらためて“女性は食べ物には弱い”と言うことを再認識させられました！？